

複式第5・6学年 国語科学習指導案

1 単元・教材

みなかみ町の友達に今の奄美の様子と奄美のよさを伝える小冊子(意見文+紹介文)を作ろう。

「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」(光村図書5年)

『鳥獣戯画』を読む「発見、日本文化のみりよく」(光村図書6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

これまでに子供たちは、4年の「世界にほこる和紙」の学習で、まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、分量を考えて要約すること、「伝統工芸のよさを伝えよう」の学習で、理由や事例を挙げて考えを伝える学習をしてきている。また、「新聞を読もう」の学習では、書かれた目的や対象を踏まえ、知りたいことに合った新聞や記事を選んで読む学習をしてきている。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「自然環境を守るために」で構成される複合単元である。指導の重点は図表やグラフの扱い方にあり、特に気を付けたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で指導していく。図表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にもいかすことをねらいとしている。

ここでの学習は、5年「想像力のスイッチを入れよう」での、事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝え合う学習へと発展していく。

(第6学年)

これまでに子供たちは、5年の「固有種が教えてくれること」の学習で、文章における資料の効果を考えながら読むことを、「グラフや表を用いて書こう」の学習で、目的に合った資料を選び、資料と文章とを対応させて書くことを学習してきている。また、「利用案内を読もう」の学習で、必要なところを選んだり、複数の情報を組み合わせて考えたりする学習をしてきている。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材『鳥獣戯画』を読むと、「書くこと」の教材「発見、日本文化のみりよく」で構成される複合単元である。筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫を捉えたり、伝えたいことに合わせた構成を考えたりすることを通して、絵や写真の使い方、豊かな表現などを他の場面でも活用できるようにすることを主なねらいとしている。

ここでの学習は、6年「考えとは」での、論の展開や表現の仕方に着目して複数の考えを読み、考えを交流する学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

ア 異学年協働の言語活動の設定

複式学級の異学年が同じ教室で学習するよさをいかし、「みなかみ町の友達に今の奄美の様子と奄美のよさを伝える小冊子(意見文+紹介文)を作ろう。」を異学年協働の活動として設定し、その達成に向けて異学年で協力しながら学習を進めていくことができるようにする。その際、子供の興味・関心を基にペアやグループを作り、教え合いや学び合いを充実させながら学習を進め、より学習者主体の授業ができるようにしていく。

イ 活用・探究場面におけるめあてに代わる活動目標「マイチャレ」の活用

単元を通してガイドを中心に学習を行うが、活用・探究場面では個人やペアで学習する「単元内自由進度学習」を取り入れる。その際、子供自らの活動目標である「マイチャレ」を設定し、学習計画を基に学習形態等を自己調整して学習を進めていくことができるようにする。

ウ 単元の活用・探究場面での学習過程の確立

すでに子供たちの中に定着している習得場面での学習過程を生かしながら、より学習者主体の授業が展開されるように、活用・探究場面においても、「復習」→「マイチャレ」→「計画確認」→「自力解決」→「計画調整」→「振り返り」という学習過程で進めていけるようにする。

(3) 子供の実態

国語科の学習に関する調査結果は以下のとおりである。 (実施日 R6. 7. 19)

調 査 項 目	第5学年（6人）		第6学年（6人）	
① 異学年協働学習について	好き 6人	嫌い 0人	好き 6人	嫌い 0人
② 「マイチャレ」の活用	好き 5人	嫌い 1人	好き 3人	嫌い 3人
③ 目的に合った資料を選び、資料と文章とを対応させて書く。	正答 6人	誤答 0人		
④ 筆者の考え方と資料や言葉の使い方の工夫を捉えながら読む。				
5年生の全体的な傾向は以下のとおりである。	6年生の全体的な傾向は以下のとおりである。			
《異学年協働学習について》				
①より、同学年だけでなく、上の学年と協働して学習することに意欲をもっている。	①より、同学年だけでなく、下の学年と協働して学習することに意欲をもっている。			
《「マイチャレ」の活用について》				
②より、自分の活動目標を基に学習することが好きな子供が多い。自分のペースで学習することは楽しいが、一人の学習は不安になることがあると答えている子供もいた。	②より、自分の活動目標を設定することに苦手意識をもっている子供が多いことが分かった。どんなマイチャレにしたらよいか迷うと答えている子供が多かった。			
《学習内容について》				
③より、資料から分かったことを文章にする力は十分に付いていることが分かる。しかし、資料から分かったことを基に自分の考えを書く力を身に付けている子供は少ない。	④より、言葉の意味や表現技法の理解が十分に定着していないことが分かる。誤答の中に考えつかないという子供もいた。			

(4) 指導上の留意点

5年生も6年生も、同学年の友達とだけでなく上の学年や下の学年と協働して学習したいと意欲をもっている。協働しながら学び合う場（異学年同士のペア）を作り、協力し合いながら学習を進められるように、単元内自由進度学習を取り入れる。

「マイチャレ」を立てる段階では、自分の学習計画を基に、それぞれで「マイチャレ」を設定させ、自分のペースで自己調整を図りながら学習を進めるよう促す。また、一人の学習が不安になる子供もいるため、ペアで計画を確認する時間を設定する。

5年生は、資料から分かることを文章にすることに苦手意識をもっている子供がいることから、資料を深く読み、考察する時間を設定する。その際、資料の読み方や使い方について、資料がある場合とない場合を比較しながら考えられるようなワークシートを準備する。6年生は、表現技法について理解できるようにするために、文末表現や論の進め方、絵を評価する言葉に着目するよう促す。また、表現の工夫を見付けさせたり、言葉の意味を深く考えさせたりする時間を多くとり、筆者が工夫した様々な表現にふれながら理解できるようにする。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

○ 原因と結果など情報と情報の関係について理解し、意見文の中で使うことができる。 (知(2)ア)	○ 原因と結果など情報と情報の関係について理解し、意見文の中で使うことができる。 (知(2)ア)
◎ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思B(1)エ)	◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思B(1)ウ)
○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (思C(1)ウ)	○ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (思C(1)ウ)
○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 評価規準

第5学年	観点	第6学年
原因と結果など情報と情報の関係について理解している。	知識・技能	原因と結果など情報と情報の関係について理解している。
① 「書くこと」において、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、目的に応じて文章と結び付けながら書いている。 ② 「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	思考・判断・表現	① 「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながら書いている。 ② 「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。
見通しをもって学習計画を立て、資料を使うことのよさを理解し、今までの学習を生かして、奄美の現状を伝える説得力のある意見文を進んで書こうとしている。	主体的に学習に取り組む態度	見通しをもって学習計画を立て、表現の工夫をするよさを理解し、今までの学習を生かして、奄美の魅力が伝わる分かりやすい紹介文を進んで書こうとしている。

4 指導計画（第5学年：全11時間、第6学年：全11時間） ※ 網掛けの部分は重点的に指導に入る時間

	5年 学習活動	6年 学習活動	
	1 ゴールの活動と単元のめあて、学習計画を設定する。 (1) 「みなかみ町の友達に今の奄美の様子と奄美のよさを伝える小冊子(意見文+紹介文)を作ろう。」という両学年共通の言語活動を設定する。 (2) モデルの小冊子から、それぞれの学年で身に付けたい力を明確にする。 (3) 各学年の単元のゴールと単元のめあてを設定する。 ㊦ 資料を効果的に使って、今の奄美の様子を伝える意見文を書こう。 ㊧ 今の奄美の様子を伝えるには、資料をどのように使えばよいだろうか。 (4) 学習計画を立てる。 ア 筆者の考えを知る。 イ 意見文の書き方を学ぶ。 ウ 資料を使うよさを学ぶ。 エ 自分の報告することについて調べる。 オ 調べたことを基に、意見文を書く。 カ 振り返る。 評価 見通しをもって学習計画を立て、資料を使うことのよさを理解し、今までの学習をいかして、今の奄美の様子を伝える説得力のある意見文を進んで書こうとしている。【態】	㊦ 表現を工夫して、奄美のよさを伝える紹介文を書こう。 ㊧ 奄美のよさを伝えるには、表現をどのように工夫すればよいだろうか。 (4) 学習計画を立てる。 ア 筆者の考えを知る。 イ 表現を工夫するよさを学ぶ。 ウ 紹介文の書き方を学ぶ。 エ 自分の紹介したいことについて調べる。 オ 構成を考えて、紹介文を書く。 カ 振り返る。 評価 見通しをもって学習計画を立て、表現の工夫をするよさを理解し、今までの学習をいかして、奄美のよさが伝わる分かりやすい紹介文を進んで書こうとしている。【態】	

見通す①

見通す①

習得③	2 筆者が伝えたいことを捉え、筆者の考えをまとめる。 ○ 筆者が伝えたいことは何か、文中の言葉を使って短くまとめる。	2 筆者が伝えたいことを捉え、筆者の考えをまとめる。 ○ 筆者が伝えたいことは何か、文中の言葉を使って短くまとめる。	習得③
	3 統計資料の読み方や資料を使った意見文の書き方について考える。 ○ モデル文から、資料を使った意見文の文章構成について知る。 【評価】 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。【思】	3 表現の工夫をするよさを知る。 ○ 書き出し、文中の言葉の工夫 ○ 表現の工夫(体言止め、語りかけるように) ○ 伝えたいことを分かりやすくする使い方 ○ 読み手が読みやすくなる使い方 【評価】 原因と結果など情報と情報の関係について理解している。【知】	
	4 資料を使うことのよさを知る。 ○ 文章と対応させて使う。 ○ 伝えたいことを分かりやすくする使い方 ○ 読み手が読みやすくなる使い方 【評価】 原因と結果など情報と情報の関係について理解している。【知】	4 表現の工夫をするよさや、紹介文の書き方について考える。 モデル文から、表現を工夫した紹介文の文章構成について知る。 【評価】 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。【思】	
活用・探究⑥	5～10 習得した知識・技能を生かし、自分の課題解決を図る。 本時：第6時		
	① 統計資料や題材を集めて自分の考えをもつ。 ② 文章の構成や展開を考える。(メモ、下書き) ③ 資料と文章の結びつきや書き表し方を工夫できないか考える。 ④ 引用した文や図表、グラフを入れて書く。 ⑤ 文章を推敲する。 ⑥ 友達と読み合い、よさを見付ける。 ⑦ 学習の振り返りをする。 【評価】 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、目的に応じて文章と結び付けながら書いている。【思】 【評価】 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながら書いている。【思】		
共有・振り返り①	11 小冊子を読み合い、感想を交流し、学習を振り返る。 【評価】 見通しをもって学習計画を立て、資料を使うことのよさを理解し、今までの学習をいかして、今の奄美の様子を伝える説得力のある意見文を進んで書いている。【態】	【評価】 見通しをもって学習計画を立て、表現の工夫をするよさを理解し、今までの学習をいかして、奄美のよさが伝わる分かりやすい紹介文を進んで書いている。【態】	共有・振り返り①

5 本時（6/11、単元内自由進度学習 2/6）

- (1) 目標 【5年生】 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、目的に応じて文章と結び付けながら書いている。
【6年生】 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながら書いている。

(2) 指導に当たって

「つかむ・見通す」の段階では、異学年共通の言語活動「みなかみ町の友達に今の奄美の様子と奄美のよさを伝える小冊子(意見文+紹介文)を作ろう。」を再確認させ、相手意識や目的意識をもつことができるようにする。また、個々に「マイチャレ」を設定し、自分に必要な学びを進めることができるようにする。さらに、自分の学習計画や「マイチャレ」を基にペアやグループで協働的に学習が進められるように本時の計画を確認する時間を設定する。

「調べる・練り上げる」の段階では、「単元内自由進度学習」を取り入れ、ガイドを中心に子供一人一人が自己調整しながら学習を進めていくことができるようにする。

「まとめる・生かす」の段階では、異学年のペアやグループで交流する時間を設定し、進捗を確認しながらお互いに次時の計画について話し合う活動を通して、自己調整しながら学ぶことができるようにする。

(3) 実際 ※ は自らの学びを調整しようとする姿を色濃く表している部分 ※ 網掛けの部分は本時の到達させたい目標

過程	場面	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ・見通す	7	1 全体で単元のゴールを確認し、活動に見通しや意欲をもつ。 みなかみ町の友達に奄美のよいところをたくさん紹介するぞ！ 読んだ人が興味をもてるように書き出しを工夫しなければね。 2 各学年で前時までの学習を振り返る。 5年生：資料の読み方や意見文の書き方 6年生：表現の工夫の仕方や紹介文の書き方 ぼくの考えが伝わるように資料と文を結びつけて書こう。 みなかみ町の友達に意見が伝わるように表現を工夫しなきゃ！ 3 本時の学習について、「マイチャレ」を考える。 4 ペアで学習の計画を確認する。 ぼくの「マイチャレ」は、「表から分かることを、分かりやすく文章にしよう。」だよ。 私は下書きまで終わったよ。今日はみなかみ町の友達を読みたくなるような書き出しを考えてみるよ。	- 前時までの学習を振り返り本時の学習でいかせるようにするために、5年生は図や表と文章のつながりや意見文の書き方、6年生は表現の工夫の仕方や紹介文の書き方について指導する。 - 活動の見通しをもって、自己調整しながら活動するために、異学年のペアやグループで本時で何をするかを交流し合い、単元内自由進度学習の見通しをもてるようにする。 - 意見文や紹介文を書く活動が主体的な学びになるようにするために、本時の「マイチャレ」を設定し、自分の課題を意識できるようにする。また、活動の見通しをもてるようにするために、課題解決に適した方法・形態等を個々で選択・決定することができるようにする。
		5 意見文・紹介文をペアで作る。 (単元内自由進度学習) ① 5年生：統計資料を集めて自分の考えをもつ。 6年生：題材を集めて自分の考えをもつ。 ② 文章の構成や展開を考える。 ③ 5年生：資料と文章の結びつきを考えて書く。 6年生：書き表し方を工夫できないか考えて書く。 資料から分かったことをどんなふうに伝えればよかったかな。友達に聞いてみよう。 紹介文作りをがんばろう。でも、まずペアの5年生が困っているからアドバイスしてあげよう。 5年生の意見文とつじつまが合っているか確認しないと。お互いに読み合う時間をとらないといけないな。 資料と文がつながるように書けたぞ。先生や友達に読んでもらいたいな。 特に伝えたいところは、表現を強調して書いてみよう。 ④ 引用した文や図表、グラフを入れて書く。 ⑤ 文章を推敲する。 ⑥ 友達と読み合い、よさを見つける。 ⑦ 学習の振り返りをする。	- 各時間の到達させたい目標に迫らせるために、文章の構成まで到達することができなかった子供に優先的に個別指導に入る。 - 自力解決が難しい子供に対応するために、奄美の様子やよさが分かるモデル文や「文章に説得力をもたせるには」で学習したことを振り返る資料を準備する。また、自分の考えをもてるようにするために、友達やペアとの関わりの中で、教え合いの場を設ける。 - 多様な考え方や学習の方法に対応するために、使用できるワークシート（意見文や紹介文の型、方眼用紙）を複数準備する。 - 資料の使い方や表現の工夫を確認するために、習得段階で意見文や紹介文のポイントをまとめておき、いつでも活用できるように掲示しておく。 - 自分に合った表現ツール（ワークシート、原稿用紙、タブレット）を自己選択できるようにするために、ツールを固定化せずに子供が選択できるようにする。
調べる・練り上げる	30		
まとめる・生かす	8	6 ペアで学習計画を振り返り、進捗状況の確認をしたり計画を調整したりする。 今日で推敲までいく計画だったけど、下書きも終わらなかったな。次の時間の計画を少し修正しないとイケないな。 ペアの5年生がよい意見文を作っていたな。これをもとに、私ももっと表現を工夫できないか考えてみたいな。 7 全体で振り返り、交流する。 8 全体で次時の活動について確認し、これからの見通しや意欲をもつ。	- 学習計画を振り返り、必要に応じて学習内容を調整できるようにするために、ペアでお互いの進み具合を確認する。 - 次時の学習が主体的に活動できるようにするために、本時の学び方を振り返り、学習計画の加除修正をする。 - 学びの深まりや学び方のよさを実感できるようにするために、「マイチャレ」を基に振り返りをする。また、更に異学年間の交流を深めていけるようにするために、学習支援アプリを活用し、視覚的に捉えやすい掲示を行う。

